



Astena Holdings Co., Ltd.
COMPANY PROFILE

Diversify for Tomorrow.

アステナグループは、持株会社であるアステナホールディングスを核として

ファインケミカル事業、HBC・食品事業、医薬事業、化学品事業、

その他事業の5事業の各社で構成されています。

さらにESG経営による持続的な成長を目指すべく

新規事業への投資と育成にも取り組んでまいります。

社名の意味

アステナは「明日（未来）」と「サステナブル（持続可能）」の造語であり、
新たな経営・ガバナンス形態の下で、アステナグループのステークホルダーである皆様と
当社自身が持続的に健やかな未来を迎えられるような
ビジネスをおこなっていく願いを込めています。

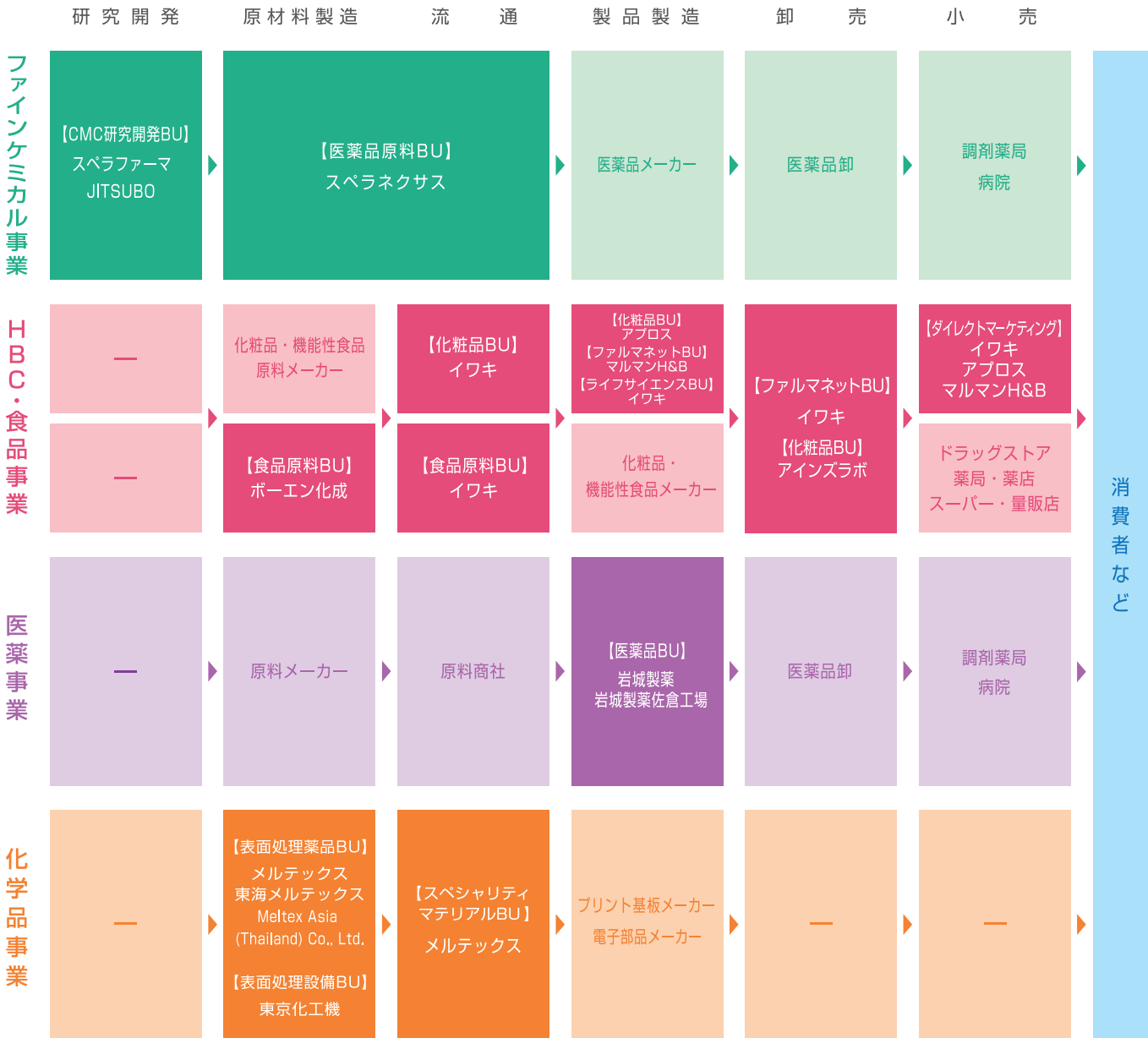
ロゴの意味

DNAをモチーフにすることで
伝統と先進性を両立するイメージを表現しました。



バリューチェーン

アステナグループは、ファインケミカルをはじめとした5つの事業において、研究開発から通信販売業まで幅広いバリューチェーンを持っています。



※BU：ビジネスユニット（会計上売上を認識しているユニット）



ファインケミカル事業



スベラファーマ

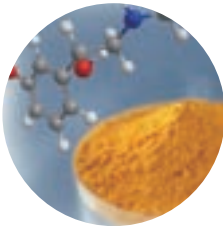


スベラネクス



ファインケミカル事業は、CMC事業^{*1}、CDMO事業^{*2}、調達プラットフォーム事業の3事業を柱とし、医薬品開発・製造分野において幅広く展開しています。CMC事業は、開発ステージに適した医療用医薬品の研究開発、治験原薬・治験薬製造などのサービスをハイレベルで提供しています。調達プラットフォーム事業では、多彩かつ高度な大量製造技術を活かし、ジェネリック医薬品の商用原薬の製造、新薬の中間体および原薬の受託製造を手がけ、国内外の信頼あるメーカーから、各種原料・中間体、添加物等の調達と販売をおこなっています。また、独自の合成技術を活かし、環境に優しく高品質・低コストで、ペプチド原薬の製造プロセスの開発・技術移管、並びに受託製造をおこなうほか、創薬インキュベーション事業として、ベンチャー等への出資を通して、国内の新薬開発に貢献しています。

*1 CMC：Chemistry, Manufacturing and Control *2 CDMO：Contract Development & Manufacturing Organization



HBC・食品事業



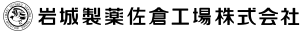
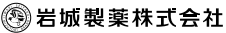
※持分法適用会社



HBC（「Health & Beauty Care」の略称）・食品事業は、全国のお客様の美と健康を一番に考えた商品・サービスを提供しています。ファルマネット事業は、ドラッグストアおよび薬局・薬店に向けた一般用医薬品・健康食品の販売をはじめ、ストアブランド品の提案や品揃え・棚割り支援などのリテール・サポートをおこなっています。食品原料事業では独自技術を活かし、畜肉エキス・果汁パウダー・野菜エキスなどの受託加工と、機能性食品原料の販売をおこなっています。化粧品事業では、国内外の原料素材メーカーのあらゆる商品を選別し、各大手化粧品メーカー含め数多くのユーザーに供給するほか、自社ブランドをはじめとする化粧品の通信販売およびOEMを中心とした事業展開をしています。



医薬事業



医薬事業は、医療用医薬品、一般用医薬品を中心に軟膏やクリーム・ローションなどの半固形製剤、錠剤・散剤など固形剤の製造・販売をおこなっています。特に、近年市場が大きく成長したジェネリック医薬品においては、先発品にない付加価値をつけた製剤も開発しています。徹底した法令遵守のもと、高品質な医薬品を安定的に供給する製薬企業の社会的使命を果たすべく、長年の医薬品製造で蓄積した技術、徹底した製造管理・品質管理により、専門医からも信頼ある半固形製剤のトップメーカーとして多品種の皮膚外用剤を供給しています。美容医療分野では、皮膚領域における医療関係者との絆を強め、美容施術効果を高め確実に効果を感じられるドクターズコスメを展開しています。美容医療をより身近な存在にし、理想の肌を手に入れたい方をサポートしていきます。



化学品事業



化学品事業は、表面処理薬品の先端を目指し、高品質高性能な薬品のグローバルな提供をはじめ、研究開発や製造方法の開発に注力しています。プリント基板セグメント向けとしてビルドアップ基板を中心に高機能ビアフィル用めっき薬品や精度の高いシード層エッチング液、電子部品セグメント向けにMLCC素材に適合したスズめっき薬品、半導体セグメント向けにはセンサーやパワーモジュール向けに種々薬品を提供しています。また、今後変化が大きい自動車用途向けには、新しいニーズにお応えすべく開発を進めています。さらに、各種めっき処理に関する機器・装置や金属塩および薬品原料、消耗品の販売も展開し、薬品と装置の総合的なソリューションを提供しています。



その他事業



その他では、社会的な課題の解決を目指すソーシャルインパクト事業を展開しております。特に地域社会と共に事業を創り上げる地域共創型の事業に力を入れております。2014年に「まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』」が策定され、人口急減・超高齢化の進展、将来の地域社会の存続危機という課題に対する政策が実行されてきました。その結果、社会的な課題の認識は進みましたが、それらの多くは未解決です。当社は能登半島の最先端に位置する石川県珠洲市に拠点を置き、地域のみならず、1次産業、エネルギー、ツーリズム、人材、教育の領域における地域共創事業を展開し、循環型地域経済の構築に貢献します。

1914	大正	3年	薬種問屋、岩城市太郎商店創業
1931	昭和	6年	岩城製薬所設立(現 岩城製薬株式会社)
1937	昭和	12年	大阪出張所開設
1939	昭和	14年	大阪出張所が独立採算制の岩城薬品株式会社として発足
1941	昭和	16年	岩城市太郎商店を株式会社岩城商店に改称（資本金19万5千円）
1950	昭和	25年	輸入原料の販売開始
1953	昭和	28年	福岡出張所開設（現 福岡オフィス）
1954	昭和	29年	名古屋出張所開設（現 名古屋オフィス）
1955	昭和	30年	富山出張所開設（現 富山オフィス）
1962	昭和	37年	岩城謙太郎 社長就任
1963	昭和	38年	株式会社岩城商店をイワキ株式会社に改称 東京証券取引所第二部 上場
1964	昭和	39年	大阪証券取引所第二部 上場（平成16年1月上場廃止）
1975	昭和	50年	本社 組織再編により原料薬品部、化成品部、食品部が発足
1986	昭和	61年	岩城薬品株式会社を合併し、大阪支社誕生
1989	平成	元年	本社ビル竣工
1994	平成	6年	岩城修 社長就任
2005	平成	17年	東京証券取引所第一部指定
2011	平成	23年	株式交換によりメルテックス株式会社に完全子会社化
2014	平成	26年	創業100周年を迎える
2017	平成	29年	岩城慶太郎 社長就任
2019	令和	元年	IWノースキューブ竣工
2020	令和	2年	スベラファーマ株式会社を完全子会社化
2021	令和	3年	岩城製薬佐倉工場株式会社を孫会社化
			イワキ分割準備株式会社設立（現 イワキ株式会社）
			スベラネクス株式会社設立
			マルマンH&B株式会社を完全子会社化
			アステナハートフル株式会社設立
2022	令和	4年	JITSUBO株式会社を孫会社化
			アステナホールディングス株式会社として商号変更、持株会社化
			本社機能の一部を石川県珠洲市へ移転
			奥能登SDGs投資事業有限責任組合を設立
			株式会社イワキ総合研究所をアステナミネルヴァ株式会社へ商号変更
2022	令和	4年	東京証券取引所プライム市場 移行
			株式会社アインズラボを孫会社化



1941年（昭和16年）
岩城商店に改称



1963年（昭和38年）
創業50周年記念祝賀会（於サンケイホール）



1989年（平成元年）
現在の本社ビル竣工



2014年（平成26年）
創業100周年感謝の会（於ホテルニューオータニ）

- スベラファーマ
- イワキ
- 岩城製薬
- メルテックス
- アステナミネルヴァ



TOP MESSAGE

代表取締役社長
岩城 慶太郎



「クスリのイワキ」から「サステナビリティのアステナ」へ

当社の創業者である岩城市太郎は、大正12年9月1日、関東大震災に見舞われて薬種問屋を営んでいた店舗を焼失。その2日後、親戚や従業員からお金を借りて、単身で大阪・道修町まで薬を仕入れに行きました。当時、医薬品は自由価格で取引されていたこともあり、東京の医薬品相場は高騰に高騰を重ねましたが、市太郎は頑なに定価販売を継続。以来、「東京でクスリを買うならイワキ」と、お取引先様にご評価頂けるようになったと伝えられています。こうした市太郎の経営姿勢は、「誠実」「信用」「貢献」という、当社グループの基本的信条となっています。

それから100年、当社グループは大きな変革の時を迎えています。令和3年6月1日、持株会社体制への移行を機に、社名をアステナホールディングス株式会社へ変更。石川県珠洲市に本社機能の一部を移転してSDGsプロジェクトの研究開発をおこなうなど、「産業のサステナビリティ」を高めるプラットフォーム戦略、「技術のサステナビリティ」を高めるニッチトップ戦略、そして「社会のサステナビリティ」を高めるソーシャルインパクト戦略という3つの戦略を基本とした企業グループへの進化を始めました。「クスリのイワキ」から「サステナビリティのアステナ」へ。皆様とともに、次の100年を歩んでいくことを願っております。

Diversify for Tomorrow.



www.astena-hd.com